

共生・協働の農村づくり運動

# むらづくり通信

VOL12

～人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会～

さつま町中津川区



地区住民総活躍のむらづくり



次世代へつなぐ伝統芸能「金吾様踊り」  
(兵児踊り)



さつまいもの植付作業で世代間交流

鹿児島県では、農村の活性化を目指し「農村集落の再生」「新たなむらづくりの形成」「むらづくりの維持・発展」を図るため、地域の資源を活用し、NPOや都市住民など地域外の活力も取り入れた「共生・協働の農村（むら）づくり運動」を推進しています。



鹿児島県農政部農村振興課

鹿児島県共生・協働の農村づくり運動推進協議会

祝

# 平成30年度 農林水産祭 むらづくり部門 日本農林漁業振興会会長賞(※)受賞 中津川区公民館 (さつま町) ～400年の歴史を伝えるむらづくり～



※ 天皇杯等三賞の一つ



## 中津川区の概要

- ①総人口 981人  
(65歳以上40%)
- ②総世帯数 430戸
- ③農家戸数191戸
- ④主要作目  
(水稲, 肉用牛など)

※H30年時(③はH27)



中津川区は、鹿児島県の北西部、さつま町東部の5集落からなる水田地帯であり、かつてこの地域を治めていた島津金吾歳久公を祀る大石神社に奉納する「金吾様踊り」を継承してきた地域です。

地域住民による歴史ある伝統芸能の復活と継承活動を契機に、青年・女性等の組織活動や地域住民の交流が活発となり、若者のUターン者も増え、地域を担う後継者が育成されています。



女性グループ「夢はな会」

地域農産物の加工品開発などに取り組むとともに、地区の運営委員として地域の活性化に貢献。



大念仏踊りの一つ「地割舞」

55年ぶりの地割舞復活は、住民の地域への誇りを蘇らせた。



焼酎「金吾さま」

遊休農地を利用してさつまいもを栽培。オリジナル焼酎を商品化し、自主財源を確保。



なかっこ日曜朝市

「なかっこ日曜朝市」を拠点とした直売・交流活動は、高齢農家等の収入確保やサロンの役割も果たしています。



活躍する農作業受託組合

田植えや防除等の農作業受託など、地域ぐるみで営農を続ける仕組みづくりに取り組んでいます。

○ 鹿児島県は、農林水産祭のむらづくり部門にて三年連続で上位三賞を受賞しています。

平成28年度	内閣総理大臣賞	大野地区公民館(垂水市)
平成29年度	天皇杯	阿室校区活性化対策委員会(宇検村)
平成30年度	日本農林漁業振興会会長賞	中津川区公民館(さつま町)

# 平成29年度共生・協働の農村づくり運動表彰

県ではむらづくり活動の模範的な取組をしている地区等を表彰しています。  
受賞地区の活動内容の詳細については、県ホームページに掲載しています。

○ 平成29年度は、農村集落部門で2地区、功労者部門で1名が表彰されました。

【農村集落部門】	一ツ木公民会（さつま町）
	荃永地区自治公民館（南種子町）
【功労者部門】	野上 操 氏（日置市東市来町）



平成30年5月21日表彰

## 農村集落部門

### 一ツ木公民会（さつま町）

「集落の高齢者や兼業農家の誰もが参加し、楽しく農業が続けられる集落」の実現を目指し、集落内外の多様な人材を活用した共生・協働のむらづくりに取り組んでいます。

#### 主なむらづくりの取組

- 集落ぐるみでの効率的な営農活動
  - ・ 農産物の収穫・調整に高齢者を雇用
  - ・ 農業機械の共同利用等によるコスト削減
- 多様な主体との連携
  - ・ 給食センターと連携した地産地消への取組
  - ・ 子ども達へ農業体験の場を提供
  - ・ Uターン者や若者を中心とした集落行事の運営



住民一体となった収穫作業



市街地の子ども達と農業体験

### 荃永地区自治公民館（南種子町）

地域資源を活用した特産品開発や地域行事等の伝統文化の継承など、「地域みんなで安心して暮らせる共生・協働のむらづくり」に取り組んでいます。

#### 主なむらづくりの取組

- 女性参画による地域活性化
  - ・ 女性を中心にむらづくり委員会を設立し、郷土に伝わる赤米の特産品（つのまき）を開発
  - ・ 若い世代へ伝統料理等を継承
- 水稻栽培に係る年中行事を地域全体で伝承
  - ・ 宝満神社御田植祭（国の重要無形民族文化財）
- 安心して暮らせる地域づくり
  - ・ 高齢者見守り旗の導入
  - ・ I・Uターン者への空き家情報の提供



宝満神社「御田植祭」



特産品開発と食文化の継承活動

## 功労者部門

### 野上 操 氏（日置市）

東市来町尾木場地区で、野上氏の行っていた棚田の保全活動の取組が地区全体のむらづくり活動に波及し、都市農村交流など地域住民の一体的な活動につながっています。

#### 主な功績

- 棚田を中心とした農村振興や農地の保全
  - ・ 明治21年から45年もの歳月をかけて開墾された棚田を70年以上にわたり保全
  - ・ 田植えや稲刈り体験等、グリーン・ツーリズムの推進にも貢献
  - ・ 野上氏の手がける掛け干しは、尾木場の秋の風物詩として各種メディアで紹介
  - ・ 高齢化が進む農村地域の模範となる取組



## 鹿児島大学と連携したむらづくり（知名町）

共生・協働の農村づくり運動の一環として、平成30年度は知名町において、鹿児島大学と連携し、地域活性化へ向けた方策を検討しました。

### 島の農業や地域資源の実態調査

- 対面インタビュー
  - ・ 沖永良部島のイメージ
  - ・ 桑茶の認知度と評価、消費者ニーズ
- 住民、世帯の意向調査
  - ・ 農業経営の概要、今後の意向
  - ・ 地域資源への認知度、保全への意向等
- 訪問インタビュー
  - ・ 観光地、桑茶加工場、田芋生産者他
  - ・ 区長会等との意見交換



#### 地域資源



#### 伝統食



### 調査結果に基づく大学からの提案内容

地域資源(伝統文化・食材・観光スポット)をフル活用した「島丸ごとブランド化」によるビジネスづくり、新たな観光価値により、島全体をつなぐ観光サービスをつくる

- プレース（地域）ブランドのブランディング
- ネット情報、SNSの効果的活用（知名度アップを図る）
- 観光サービスのパッケージ化 ～ 「沖永LOVEフリーパス」（体験＋航空券）
- 農業労働力支援システムの構築

## かごしま農村創生塾 ～農村に人と仕事を取り戻す～

地域資源を有効に活用して、「ひとづくり」や「しごとづくり」など地域の活性化を牽引するむらづくりリーダーを育成。

中山間集落協定や水土里サークル活動などの実践者、集落営農組織など県内10地区の20名を対象に、講演やワークショップ、現地視察などを実施。  
(年3回)

### 第1回 将来の人口予測からムラを考える(平成30年11月19日～20日)

- 講演「田園回帰1%戦略～農村に人と仕事を取り戻す～」  
講師 (一社)持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏

#### <主な内容>

- ・暮らしに必要なものを自分たちの地域で生み出し、地域内で経済を循環させる。
- ・複数の仕事を組み合わせ、地域全体で所得を確保する。

#### ● ワークショップ(演習)

人口分析&予想プログラムを活用し、塾生が居住する地域の人口の現状分析と将来の人口を推測。

#### ● グループワーク

地域の強みを活かし、弱みを補う仕組みづくりを検討。定住や交流人口増へ向けて、地域経済を循環させるための体制づくり、受け皿づくりなど具体的な取組を検討し、相互に発表。

人口予想プログラムによる分析

地域人口の安定化に向けたシナリオづくり

### 第2回 むらづくり&グリーン・ツーリズム推進研修会

※次ページで紹介

### 第3回 地域の取組事例に学ぶ(平成31年1月23日～24日)

- 講演「多摩源流の魅力ある地域資源でむらを活性化」  
講師 山梨県北都留郡小菅村 NPO法人 多摩源流こすげ 事務局長 石坂 真悟 氏

石坂氏による講演

#### <主な内容>

- ・村の地域資源に着目し、多摩川源流の活性化を目指し、都市農村体験プログラムを企画。地域経済を生む活動につながっている。
- ・住民、NPO、役場等が役割分担し、「村のファンづくり」に取り組んでいる。
- ・「こすげ仕事図鑑」(人材図鑑)を作り、村の仕事をPR。

#### ● むらづくり現地事例研修(さつま町)

##### ① 一ツ木公民会

- ・地域営農の仕組みづくり
- ・集落ぐるみでの効率的な営農活動
- ・地域農産物の付加価値づくり

##### ② 中津川区公民館

- ・伝統芸能の復活と継承活動
- ・Uターン者の農業経営概況
- ・普通期水稲種子生産の取組状況

一ツ木地区～集落ぐるみの営農活動～

# むらづくり&グリーン・ツーリズム推進研修会

地域内外の多様な主体と連携した地域資源等の活用事例を学ぶことにより、個性ある地域活性化への取組を推進するため、むらづくり&グリーン・ツーリズム推進研修会を開催しました。

開催日：平成30年12月19日（水）

場 所：ホテルウェルビューかごしま（鹿児島市）

参加者：むらづくり実践地区リーダー，農家民宿実践者，関係機関等 110人

## 第Ⅰ部

## むらづくり活動推進研修会 ～住民一体となったむらづくり活動の推進～

### ■ 講演 「遊子川<sup>ゆすかわ</sup>トマトで、まちづくり ひとづくり わかづくり<sup>せいよ</sup>」

- 講師 愛媛県西予市 企業組合遊子川ザ・リコピンズ 辻本 京子氏，水口 美鶴氏
- ・地域特産物であるトマトの加工品開発，農家レストラン事業の実施により，交流人口が増加。
  - ・加工原料となる地域農産物の買取により，農家の収益性向上，経営安定化に寄与。
  - ・加工品製造や，農家レストラン事業により地域の雇用を創出。
  - ・トマトのオーナー制度，移住体験ツアー等企画し，地域を活性化。



ザ・リコピンズ代表理事 辻本京子氏



遊子川産トマトを使用した加工品

#### リコピンズ受賞歴

- 平成30年3月
  - ・地域産業おこし大賞優秀賞
  - ・オーライ！ニッポン ライフスタイル賞（辻本代表）
- 平成30年10月
  - ・ディスカバー農山漁村の宝（第5回）優良事例に選定

### ■ 事例紹介

- (1) 「結いのころでみんなでもらおこし」（H29 天皇杯）  
宇検村 阿室校区活性化対策委員会 会長 後藤 恭子氏
- (2) 「みんなが楽しく農業を続けられる集落を目指して」  
さつま町 一ツ木公民会 山口 泰徳氏

### ■ 意見交換



ニンニクを使った加工品開発  
（宇検村阿室校区活性化対策委員会）



集落ぐるみで話し合い活動  
（さつま町一ツ木公民会）



講師及び事例発表者による意見交換

#### 【参加者の声】

- ・地域活性化は，地域の連携，リーダーが大切！
- ・住民が共通認識を持ち，話し合いを重ね，努力していくことが重要！

## 第Ⅱ部

# グリーン・ツーリズム，農泊研修会 ～地域資源を活用した都市農村交流の促進～

### ■ 講演 「農泊を活用したむらづくり，地域づくり」

講師 (一社)全国農協観光協会 副審査役  
谷口 雅彦 氏

- ・ 農泊への取組手法は，地域によって多種多様。
- ・ 地域によって表現する物が違って当然。
- ・ 地域の魅力づくりは，徹底したこだわりで，「ここにしかない地域のウリ」を創り上げること。
- ・ 地域のコンセプトや特徴を，誰をターゲットに情報発信するかが重要。



(一社)全国農協観光協会 副審査役  
谷口 雅彦 氏

### 『最初にすべきは数人の「覚悟ある」人材探し』

### ■ 事例紹介

#### (1) 「『食べる・泊まる・体験する』をつなぐ徳之島町金見集落の取り組み」

金見GBET※協議会 事務局 廣 智和 氏

※グリーン・ブルー・エコ・ツーリズム (徳之島町花徳支所 支所長補佐兼北部振興係長)

一般社団法人金見あまちゃんクラブ 代表理事 元田 浩三 氏

- ・ 『食』を提供する「ジビエカフェ・とうぐら」を設置(設置主体:金見あまちゃんクラブ)。
- ・ 『泊』を提供する民宿と連携するとともに，『体験』メニューを開発。
- ・ 地域の隠れた魅力や住民の個性を最大限に生かし，多くのリピーターにつなげている。



シマ料理



シーカヤック体験



外国人との食事を囲んだ交流

### ■ 事例紹介

#### (2) 「出水市のインバウンド施策」

いずみ民泊体験推進協議会 事務局 堀 昌伸 氏

(出水市産業振興部 シティセールス課 国際交流室次長)

- ・ ここでしかできない体験 農泊・ツル・武家屋敷での着付け体験をセットでPR
- ・ 受入農家がタブレット活用で多言語対応



外国人観光客の農業体験



農家民宿での様子



パネルディスカッション

### ■ パネルディスカッション テーマ:「生きがいとビジネスでつなぐ地域活性化」

- ・ 地域が一丸となって交流を促進するためには，「人材」が重要。
- ・ 安全な受入のために「ヒヤリハット」の情報を積み上げることが大切。



グリーン・ツーリズムシンポジウムin大和村  
～奄美大島での農家民宿の魅力を語りましょう～

開催日：平成30年9月12日（水）

場 所：大和村防災センター

参加者：グリーン・ツーリズム実践者等 28人

内 容

- ①「農家民宿」ってなに？  
かごしまグリーン・ツーリズム協議会事務局  
東川 隆太郎 氏
- ②「農家民宿をやってみて」  
伊仙町 民宿「幸ちゃん家」 竹田 初枝 氏
- ③「奄美市住用町での取り組み」  
NPO法人すみようヤムランド 事務局長  
古蘭 孝太 氏
- ④トークセッション NPO法人TAMASU 中村 修 氏 参加

<まとめ>

- ・農家民宿の魅力は、地域の魅力の情報発信と地域外住民との交流。
- ・体験、食事、宿泊等の役割を分担し、地域全体で受け入れていくことが活性化へつながる。

奄美の魅力を交流しながら伝える農家民宿やグリーン・ツーリズムについて参加者と一緒に考えてみました。奄美で初開催です。



竹田初枝氏

農家民宿が、地域の魅力の再発見につながりました。



シンポジウムの様子

地域資源“食”の魅力探求研修会  
～地元食材の魅力表現と価値の創造～

地元食材を活用した農泊への取組を推進するため、先進事例研修を開催。

開催日：平成31年1月15日（火）～16日（水）

場 所：熊本県球磨郡あさぎり町

食・農・人総合研究所リュウキンカの郷

参加者：農家民宿実践者等 13人

内 容

- ①地元食材を活用した“おもてなし”調理実習
- ②講 演：「食を活かしたまちづくり，人づくり」  
講 師：リュウキンカの郷 主宰 本田 節 氏

<まとめ>

- ・一手間をかけることで、食材の魅力を引き出すことができる。
- ・もったいない精神で食材を余すことなく全て使う。
- ・調味料等も手作りすることで、「ここにしかない」ものを表現。
- ・お客を受け入れることは、全てが「おもてなし」。



調理実習

自分たちで調理した料理を囲み振り返りと反省



本田節氏による講演

むらづくりに関する情報提供・相談窓口

県では、農村集落が主体となって取り組んでいる活動等の情報をホームページ等で紹介しています。あなたの地域のむらづくり活動情報の提供など共生・協働のむらづくりに関することは、最寄りの市町村役場または各地域振興局・支庁農政普及課へお問い合わせください

むらづくり通信 第12号(平成31年3月発行)

編集・発行：鹿児島県農政部農村振興課

〒890-8577 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1

TEL:099-286-3108

鹿児島県ホームページ(むらづくり, グリーン・ツーリズム)

<http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/mura/index.html>